

入場無料
予約不要

2019年5月4日 (土)

BIO Mimetics

バイオミメティクス市民セミナー・対話篇

第89回 持続可能な社会とバイオミメティクスを考える その2 博物館の役割



写真提供：株式会社島津製作所

高度情報化社会において、データの活用が重要な時代となっています。バイオミメティクスの分野においても、今後、生物と工学を結びつける知識基盤が重要な役割をはたすこととなります。今、世界では、博物館が中心となり生物系のデータベースの構築が進められています。日本は、バイオミメティクスの発想支援システムで世界をリードするものの、知識基盤の構築では遅れをとっている状況です。セミナーでは、バイオミメティクスに展開可能なデータベースに関して国内外の動向をご報告します。また、新たな動きとして、建築、農業、そして、海洋までバイオミメティクスを幅広く展開しようとしているフランスの取組をご紹介します。

バイオミメティクスの 知識基盤と博物館の役割

公益社団法人高分子学会 常務理事

平坂 雅男

主催：北海道大学総合博物館
共催：高分子学会北海道支部
北海道大学 電子科学研究所
特定非営利活動法人バイオミメティクス推進協議会
高分子学会バイオミメティクス研究会
北海道大学総合博物館
060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
問合せ先：TEL.011-706-2658 FAX.011-706-4029
E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

デジタルガイドブック ：博物館をどう見せるか？

公立千歳科学技術大学 教授

曽我 聡起



私の研究室ゼミではサービスサイエンス的思考に基づいたフィールドワークを行なっています。例えばサケのふるさと千歳水族館ではカスタマージャーニーマップという手法をもとにサービスの課題抽出を行ったり札幌国際大学博物館では解説者が不在の際のサービス低下を補うためのデジタルガイドブックの作成などです。こうした活動やユーザビリティエンジニアリングで重要なのが、現場の観察です。更に、観察やサービスシステムの実装の際に重要なのがリベラルアーツです。本講演では、先日AppleのBooksストアからダウンロード可能になった「札幌国際大学博物館ガイドブック」の作成活動などを例に取り組みの一端をご紹介します。

&



会場：北海道大学総合博物館 3階 北講義室(N308)
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分

